

途 上

「実習の先生たち、
ありがとうございました」



文責:教頭

令和4年度がスタートして、早くも2ヶ月が経過しました。6月に入り梅雨入りし、じめじめした日々が続きますが、教室からも、特別教室からも、体育館からも、ランチルームからも、そして校庭、自然体験園からも、元気な子どもたちの声や歌声が聞こえてきます。教育実習Ⅱも行われ、子どもたちは存分に教育実習生とかかわる姿が見られました。標題右の写真は、そんな実習生とのお別れ会です。淋しさの感情を抑えきれず、涙涙の子どもたち、実習生の姿がありました。



【いっしょに行こう！ミロ！！】

今号では、前回の副校長講話の続き、副校長講話「この石は どこから」を中心にお伝えします。

「この石は どこから」

〔6月6日 副校長講話〕

♪かえるのうたが きこえてくよ・・・♪ (歌いながらの登場)

全校のみなさんおはようございます。前回見てもらいましたこの石を、みなさん覚えていますか。この石ですけれども、いったいどこから来たのかということ、みなさんに聞いたと思います。今日は、石のふるさと探しの旅第2弾です。



どんなところに来ているのか、ちょっと最初に風景だけ。見えますでしょうか。ちょっと山あいの、このようなところに来てみました。

実は、前回のお話のあと、「どこからきたのか」について、鋭い考えを寄せてもらいました。その中で一つご紹介します。6年1組のKさんの考えです。ゆっくり紹介しますので聞いて下さい。

「河原になぜ水晶や瑪瑙(めのう)があるのか不思議だった。合流していることに理由があるんじゃないかと思った。普通の千曲川だけの河原や、もっと小さな川にも水晶や瑪瑙などの珍しい石があるか知りたくなった。」という考えです。みなさんは今の考えをどう思ったでしょうか。私は、さすが6年生だと思いました。私は、この考えの中には、水晶などの石のふるさとを探る大切なヒントがあると思いました。それは、先ほどのKさんの言葉の中の、この言葉です(フラッシュカードを示す)。「普通の千曲川だけの河原」という言葉です。

地図を見てみましょう。見えますでしょうか。前は、ここから中継しました。Kさんが言っている「普通の千曲川だけの河原」って、この地図だとどこだと思いますか。ここが附属長野小学校です。千曲川がこういう風に流れていて・・・そうですね。

ここだと、前回のところだと、依田川から流れてくる石と千曲川から流れてくる石、ここだと両方から石が運ばれてきているから、混ざってしまって、どっちの河原から来ているのかわからない。だからKさんがいう「普通の千曲川だけの河原」、そうですね。それは、混ざる前。ここですね。ここで、もし水晶のような石が見つければ、千曲川の上の方から流れてきていることがわかります。そこで、私、ここ（依田川が合流するよりも前の千曲川の河原）へ実際に行ってみました。一生懸命探してみました。そしたらね、見つからないんですよ。全くなかったんです。ということは、先ほどお見せしたこの石のふるさととは、こちらの依田川の上の方から流れてきているんじゃないか、ということが予想されました。私、気になって仕方なかったので、「普通の依田川だけの河原」に行きました。そしたらね、あったんですよ。お魚が川をさかのぼるように、水晶、瑪瑙、玉髓（ぎょくずい）探しの旅に出かけて、ずっとさかのぼって行って、上（上流）に行くほど大きくなって、そこで、私困りました。二手に分かれるんですね。みなさんだったら、どっちにいきますか。私はね、両方行ってみました。まずね、こっち依田川でね、探したんですよ。そしたらね、ないんですよ！見つからない。じゃあ、こっちかなって思って来た場所が、今日の場所です。この川を上へ上へ遡っていったらね、思わぬものに出会っちゃったんですよ。それは、川の中にあります。ちょっとそれを見に行ってみましょう。ここでカメラを動かしたいと思います。

今日は、本当は河原に降りたかったんですが、雨降り、川も水が増えていて危険なので、上から川の様子を見たいと思います。遠くからの映像ですみません。これが、内村川です。こっちが上流側で、こっちが下流です。この先ずっと向こうで千曲川に注いでいます。一見、普通の山の中の比較的小さな河原のように見えるのですが、手前に大きな岩があるの見えるか。思わぬものとは、これです。なぜか河原の中に、この場所だけに大きな大きな石、巨大な石が、いくつものころころ転がっているんです。私の身長よりも大きい。私の車よりも大きな岩です。

私が、下見に来た時に、偶然地元の方にお会いして、この巨石について何か知っているんじゃないかと思い、「この巨石は、いつからここにあるんですか？」と聞いてみました。すると、「いや、わからねーなあ」ということでした。ただ、「この川のこの場所の川底から、昔、お湯が沸き出していた」とお聞きしました。何か、この巨石と関係があるのかなあと思いました。さらに、「この近く（奥）に、もう一か所巨石が転がっている場所がある。巨石の場所は、この2か所だけだ」とおっしゃっていました。行ってみると確かに、もう一か所の場所にも巨石が3つありました。

さらにね、下見に来た時に、私が、河原において、この巨石に近づいて、よくこの巨石の中を見てみたんです。そしたらね、この最初の疑問「どこからきたのか」、つまり水晶などの石のふるさとを探る手がかりが、先ほど見てもらった巨大な石の中に隠されているということが



【内村川の上流の様子】



【下流の様子（巨石）】

分かったのです。その秘密というのは・・・すみませんが、そろそろ時間ですので、次回の続きにしたいと思います。次回は晴れることを祈って、この巨石に近づいて、触ってみようと思います。

それでは、これで終わりにしたいと思います。なお、川に行くときは、お家の方と一緒にいくこと。それから、急に深くなることもあります。気を付けてください。それでは、また学校でお会いしましょう。現場からの中継は、これで終わります。

ぴよぴよちゃん 誕生

3年2組の中核活動を紹介します。3年2組では、昨年度、藍を見つめ、自分たちで育てた藍を生かして、“藍染め”を行いました。藍色（ジャパンプルー）に染まる色の美しさはもちろん、あの小さな種から、こんなにも美しい色が生まれるすごさ、そして、藍の命をとおして、藍から伝わってくる命の尊さを、年間を通して見つめ続けた藍そのものから学ぶことができました。

そして今年度。生き物、ニワトリとの暮らしを通して、再度命を見つめる活動を行うことを新井先生と子どもたちで決断しました。佐久市にある養鶏場から有精卵を購入し、教室の後ろに孵卵器を設置し、21日目に卵から孵ることを信じ、その時を待ちました。

6月7日（火）から、その兆しは見え始めました。最初に気がついたのはKさんでした。そしてKさんの「卵にひびが入っているよ」の気づきから、およそ14時間後、卵から1羽の雛が孵りました。新井先生は子どもたちと、雛が孵ったらどうするのか。孵卵器からいつごろ温かい部屋へ移すのか。臍の緒をどうするのか。温かい部屋の温度設定は何度なのか。そういったことを1つ1つ、本で調べたり、chromebookを活用して検索したりしながら、生まれてからの対応策を一緒に考えてきました。

ところが、雛が孵ったのが深夜から明け方だったため、いつもより早めに学校へ来た新井先生は、2羽の雛が孵卵器で動き出している現実、「他の卵に被害が及んでしまったらどうしたら…」と、教室でただ一人、自問自答します。その自問自答には、「自分が勝手に移してしまっているのか」そんな問いも含まれていました。新井先生は、悩みに悩み、他の卵を守るため、こたつを改良して作った引っ越し部屋へと移しました。



そして8日の朝。子どもたちは雛が誕生していることは知らずに登校してきました。どんな反応をするのか。私も教室の隅っこで、見つめました。最初に気がついたのは、Hさんでした。前日にひびが入っていたことを知っていたため、孵卵器に確認に向かいます。ところが、卵は殻なのに雛がいないのです。即座に新井先生に聞き、引っ越し部屋に移っていることを知り、引っ越し部屋を確認し、かわいい2羽の雛と出合いました。待ち望んでいた雛との出会い、ピョピョと聞こえてくる鳴き声を聞き、きっと喜びを表現するだろうと思っていた私の耳に聞こえてきたHさんの言葉は、「先生ずるい」の一言でした。Hさんの願いは、雛に孵ることはもちろんのこと、そ



れ以上に雛を触ること、雛を大切に移してあげることだったのです。その行為を先生がしてしまったということ。ここへの引っかかりがあったのかもしれません。

しかし、新井先生にとっては、子どもたちが毎日見つめ続けた卵、まだ見えぬとも殻の中に居る雛を感じながら、雛の誕生を待ち望む子どもたちを思えば思うほど、卵たちを守りたかったのです。

「ずるい」って本音が言えること、子どもたちと卵、どちらにもある“本当”と葛藤し、決断していった新井先生。見つめる対象を通して、本気と本気が交錯すること、ここにも“共に在る”世界を感じることができました。

現在雛は5羽です。教室からは、「ひよこアイランドを作るんだ！」こんな声も聞こえてきました。ひよこの成長とともに、3年2組の成長も楽しみです。

呼応するということ

6月2日(木)3時間目のこと。ランチルームから、♪You raise me up♪の歌声が聞こえてきました。パソコンのキーボードから手を離し、思わず現場へ駆けつけました。

この歌をアカペラで歌っていたのは、5年2組の5人でした。Mさん、Aさん、Cさん、Fさん、Hさんが、一人ひとり順番に歌っていきました。その順番をコーディネートしていたのが、Aさんでした。Aさんは、Chromebookを操作し、伴奏を流し、右下の写真のように、Mさんが歌詞を見ながら歌っていると、Mさんが追う歌詞の場所が分かりやすくなるように、指で示していました。



歌い終えたMさんは、次に歌う順番の友だちに、右手を天に突き上げ、「がんばって〜」とエールを送り、その友だちの歌声に聞き入っていました。

Fさんとはいうと、ダンスを習っていることもあり、友だちの歌声を感じながら、自然と踊り出す場面がありました。静かな曲なので、舞うようにしなやかに踊っていました。Cさんは友だちの歌声を聞きながら、歌詞が書かれたプリントに気づいたことや工夫を書き加えていました。Hさんは、緊張の面持ちでしたが、みんなに見守られ、無事に歌いきりました。

この、5人の一連の流れが、仲間同士が呼応し合っているように見えました。そこに多くの会話はありません。相手の歌声にはたらきかけられ、自ずとわたしのからだはたらきかえす。そして聞いているわたしのからだも心地よくなる。そんな素敵な場面に出合わせていただくことができました。

こういった呼応する姿、場面はきっとどの学級でも起こっているはずです。そういった姿に気づける、感じられるわたしたちで在りたいと思います。

お知らせ

新型コロナウイルス感染症の予防について

毎日の朝の健康観察をご家庭でも丁寧に行ってください、誠にありがとうございます。今後も継続してお願いいたします。なお、風邪症状など少しでも体調が優れない場合には登校を自粛するようお願いします。